

# 四季折々の祭り

## 四季祭典



雲と川が巡り会い、草と木が響き合い、風と雨が強く、四季が華やかに感じられます。人々は放浪の末に平和と繁栄を祈り、豊作を祈るお祭りを発展させてきました。種まきの時期に農事を祈る春祭りがあるように、実りの時期には豊作を祈る秋祭りがあります。

日本の岐阜県の「高山祭」は、日本三大美祭の一つであり、春と秋に盛大な行事が行われます。そのうち、秋の「高山祭」である「八幡祭」は、五穀豊穣を祈るために行われています。八幡祭の最大の見どころは、数百年受け継がれてきた高山職人の技が凝縮された「屋台の曳き揃え」です。



浙江省中部と江南の沿岸地域でも、秋には豊作を祈り、神様をお迎えする「浦江迎会」が開催されています。閣を持ち上げてパレードをすることはこのお祭りの最大の行事であるため、浦江迎会は「輿持ち上げ祭り」とも呼ばれています。「輿持ち上げ祭り」とは、輿を持ち上げて祭ることです。「輿持ち上げ祭り」の輿は、八幡祭で使われる神輿に似て、移動している楼閣のように、極めて壯麗で、お祭りでは重要な役割を担っています。



「輿持ち上げ祭り」では、絵画、戯曲、彩札、紙の彫刻などの芸術を組み合わせており、漢民族の伝統的な民族舞踏を余すところなく展示しています。パレードの時、大きなゴングが道を鳴り響かせ、銃の音で先導し、長い旗を持って先頭に立ち、屋台がその後に運ばれ、多くの人々が作った行列は実に壯觀です。「輿持ち上げ祭り」では、精巧さを活用し、リスクを負って勝利を目指しています。3歳～5歳の元気な子供たちが、伝統的な戯曲の物語の登場人物を演じ、輿に設置された屋台で固定され、空中に立ったり、空を飛んだりしています。屋台にはそれぞれの芝居が行われています。「芭蕉扇」、「劈山救母」、「太公望の魚釣り」、「蟠桃の盛会」などの戯曲が上演され、わいわいとぎやかに過ごしている人々は、秋の最大の収穫を祝っています。



海に面した島国として、粉雪がいつまで溶けない日本の雪祭りは、真っ白な世界に隠された冬の盛会です。北海道の精巧な雪像、小樽雪あかりの路、横手の400年以上もの歴史を持つ雪洞、十和田湖冬物語、蔵王樹氷まつり…日本の冬祭りは非常に盛んでロマンチックです。

それに対して、隣国の中国では、冬祭りは厳肃で盛大です。昔の本や図志、家系図には、中国の伝統的な冬祭りが記録されており、自然と祖先への感謝が込められています。



浙江省三門県では、「三門祭冬」の習わしが脈々と受け継がれ、長い歴史があります。三門湾のほとりにあり、東は東シナ海、西は天台県、南は臨海市、北は寧海県に接しています。ここでは、海と大地が共存し、様々な文化が絡み合い、人々は海を耕して魚を飼い、自然と家族の絆を大事に思っています。「冬至はお正月に等しい」と言われており、地元の人々が祖先を祭るには、冬至は最適な日です。その頃、帰省してきた人々は、村人たちが集まって暮らし、農事や勉強を行っていた村で、冬に祖先を祭る行事を整然に行ってています。寅の刻になると、司会者、その助手、子供たち、担当者が位置につきます。まずは神様に祈り、次に祖先を祭ります。その後、長寿を祝い、高齢者のための宴会が始まります。浙江省、特に亭旁鎮楊家村、海遊鎮上坑村、健跳鎮小甫村では、宗族の冬祭りは規模最大で、完成度が最も高く、最もよく受け継がれた行事です。



人間の本性という車輪が文明を運んで都市開発を進めている中、幸いなことに、現代文明があまり触れていない場所には、懐かしい思い出がまだ残っています。「三門祭冬」では、常に家内円満を祈り続け、次の世代へと受け継がれていくでしょう。



人は時間の流れに従いながらすべての生まれ変わりを迎える、無限大の勇気で時間によるすべての物の破滅に抵抗しています。お祭りには、まさに時間に立ち向かう人々の勇気が隠されています。

人は何万年にもわたって空と大地を観察してきた時の中で、四季の移ろいを捉え、自然を尊重する形で内なる信念を形作り、民族の代々受け継がれてきたお祭りに刻み込んでいます。四季折々の島国である日本では、四季の移ろいに合わせて伝統的なお祭りが行われています。そしてその隣国である中国でも、季節、気候、生物季節の変化に従って、日常生活や農業生産を整然と行っています。四季折々のお祭りでは、人々は無限の力で、人と自然の調和を理解しようとし、民族の血に刻み込まれた不滅の信念を切り開いています。



春のそよ風が吹き、大地が緑に染まり、農家が次々と春の耕作で忙しくなる頃です。伝統的な自然集落では、人里と自然が隣接しており、伝統的なお祭りは天、地、山、川と同じルーツから生まれています。春のお祭りといえば、山の中に住む人々が農作物を地に植えて天に奉納し、神様の加護を祈願し、春の耕作に順調な天候を願い、豊作を祈る行事です。



これは、春のお祭りで中国と日本が共有する素朴な願いです。日本では、春になると、田園地帯で田植え、田遊びなどの小さな祭りを開催し、田植えをシミュレートしています。浙江省でも、農業文明で受け継がれてきた伝統的なお祭り、「班春勸農」があります。「班春」とは、春の発令を出すこと、「勸農」とは、農事に励ませ、春の耕作を促すことです。「班春勸農」は、浙江省遂昌県で始まりました。中国の有名な戯曲の「牡丹亭・勸農」は、明代の有名な作家であり、昔の遂昌県の知県である湯顯祖によって書かれました。時を遡ると、昔の素朴な農家は太い腕で耕作と稻作における「春を迎えて祝福を受ける」という習わしを現代の都市と農村の人々にゆっくりと伝え、今日にぎやかな民俗活動になりました。賑やかな春の始まりに、家々で線香を用意したり、梅の花を生けたり、爆竹を鳴らしたり、神様に祈っています。



浙江省大田村では、村人たちは時間の風化と経過を尊重し、それを理解した姿勢で、祭行列、供物、香ろうそくの点灯、先祖への捧げ物、生け花や飲酒、牛の鞭打ち、畑の耕起、春餅の配りなど、昔ながらの行事を行っています。よりにぎやかな「班春勸農」は、地元の人々が巡礼のような気持ちで、しっかりと背負った歴史遺産です。



夏は感染症が多発する時期です。夏のお祭りでは、人々は厄除けや病気平癒を祈願しており、病気にかかるない願いが込められています。日本三大美祭の一つである京都の祇園祭は、都市部で開催される非常に有名なお祭りであり、田舎で開催される夏祭りは、主に害虫の駆除や農業の加護を祈っています。

夏には潮風が台州湾の長く曲がりくねった海岸線を吹き抜け、魚と米に恵まれたこの豊かな大地は、もちろん自然への感謝を忘れていません。浙江省台州湾の南岸、椒江の河口にある漁村は、昼夜を問わず海によって堆積された肥沃な干潟や、四季折々に灌漑された豊富な雨水が、豊かな農産物と川魚を育んでいます。魚と米が豊作で村人の安全を守るために、台風が猛威を振るう夏には、無事を祈願する「大暑船送り」が行われ、浙江省の独特的夏のお祭りになっています。

船を作り、聖を迎え、酒を飲み、船を送るという「大暑船送り」の儀式が整然と行われています。五聖廟では、漁村の村人たちが祈りを込めて、事前に大暑船を作っています。大暑当日の正午には、最もにぎやかな迎聖行事が始まります。「五聖」の像が色とりどりの輿に乗って街を巡回します。力強い男たちがゴングを打ち鳴らして道を切り開き、ドラゴンダンサーが跳ねたり向きを変えたり、人々は笑ったりはしゃいだりしています。徳望の高いお年寄りが指揮を執り、若くて強い男たちが大きな船を運び、川沿いの干潟に建てられた祭壇に送って祭っています。時間になると、「大暑船」は壮大な海で激しく燃え上がり、海と空の境界線に徐々に消えていきます。この立派な夏祭りは、病気を恐れず、ただ人々を守るために、危険な要所に立つ戦士のようなものです。

